様式1

水戸藩の薬学

千波小

6年4組　山口莉央

様式2

目次

1. 研究したわけ
2. 研究のすすめ方
3. 研究したこと
(1) 徳川光圀と「救民妙薬」
(2) 水戸市植物園の薬草
(3) 徳川斉昭の医学への思い
4. 研究して分かったこと

様式2

1．研究したわけ

昨年，私は弘道館について調べました。その時に，「救民妙薬」のことを知ったので，今回，研究してみることにしました。

2．研究のすすめ方

(1) 図書館の本や，インターネットを使って調べる。

(2) 薬草を観察しに訪れてみる。

3．研究したこと

(1) 徳川光圀は，藩内巡視によって，庶民が病気やけがのときに，薬の入手や医者の治りょうを受けられないことを知り，藩医・穂積甫庵に命じ，簡単に入手できる薬草の処方を記した本「救民妙薬」を作らせました。

この本は，庶民のために野山の草木，動物など手に入るものを利用して薬を作ることや，日常の健康法などをまとめたもので，わかりやすい言葉で書かれています。

元禄6年に出版された「救民妙薬」は身近にある民間薬処方397種の使用法，特徴がまとめられ，藩内のみならず，藩外の人々にも読まれ，何度も版を重ね，明治，大正時代には活字本となって，病気の人たちの助けとなりました。

様式2

(2) 水戸市植物園の養命酒専薬用ハーブ園で水戸黄門の時代に生薬として利用された薬草を確察してみました。

〈ウツボグサ〉

※効力能
利尿、消炎など
※薬用部位と成分
花穂
トリテルペノイドなど

淋病薬
(自覚症状のものを指す)

〈ムラサキ〉

※効力能
消炎、解熱、解毒など
※薬用部位と成分
根
シコニンなど

諸腫物薬
(いろいろな腫れ物の薬)

〈クチナシ〉

※効力能
消炎、止血、
解熱、鎮痛など
※薬用部位と成分
果実
イリイド配糖体など

諸魚毒解
(いろいろな魚の毒消し)

〈メハジキ〉

※効力能
利尿、めまい、
※帚人薬など
※薬用部位と成分
全草、木実子
ルチン、レオヌリンなど

疝気薬
(腹、腰などが痛む病気の薬)

〈アイ〉

※効力能
解毒、解熱、毒虫さされ
※薬用部分と成分
葉
インドール配糖体

ふぐ
河豚に酉辛たるによし(フグ毒にあたった際の処方)

様式2

〈フジバカマ〉

※効力能
消炎，解毒など
※薬用部位と成分
全草
クマリン誘導体

えきれい
（流行性の病気）

〈コガネバナ〉

※効力能
利尿，消炎
解熱など
※薬用部位と成分
木長
オーゴニン，バイカリンなど

風眼薬
（膿漏性結膜炎の薬）

〈ナンテン〉

※効能
咳止め，
食品の防腐など
※薬用部位と成分
果実，葉
アルカロイド

のどにとげのたちたる薬
（のどにとげが刺さった時の薬）

〈アオキ〉

※効力能
しもやけ，腫れ物，火傷
※薬用部分と成分
葉
アウクビンなど

大便閉薬
（便秘薬）

〈ハウキ〉

※効力能
血行改善，
鎮痛，解熱など
※利用部位
根

〈アカザ〉

※効力能
菌痛，虫刺され
※利用部位
地上部

様式2

〈コウホネ〉
※効能
鎮痛，消炎，解熱丸など
※利用部位
根茎

〈キキョウ〉

※効能
たんを伴う咳，
のどの痛み
※利用部位
根

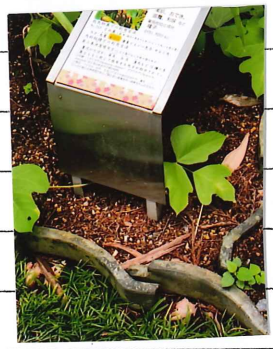
〈クズ〉

※効能
かっこんは，かぜのひき
はじめ。
かっかは二日よい。
※利用部位
根，花

〈スイカズラ〉

※効能
解熱，腫物，
あせも，しっしん
※利用部位
花，葉

〈ハトムギ〉



※効能
美肌，おでき，
滋養，利尿
※利用部位
種子

様式2

<ヒガンバナ>

※効能
腫れ物、いんきん、
たむし
※利用部位
りんけい

<ミカン>

※効能
せき止め、かぜ、
健胃
※利用部位
果皮

<ホソバオケラ>

※効能
利尿、発汗
※利用部位
根茎

<ウラルカンゾウ>

※効能
解熱、健胃、
鎮痛、鎮痙、
消化
※利用部位
根、地下茎

様式2

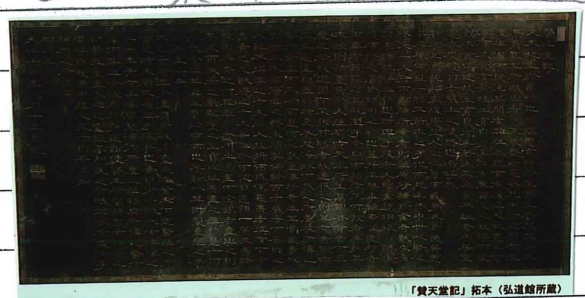
（3）　徳川　斉昭の医薬への思い

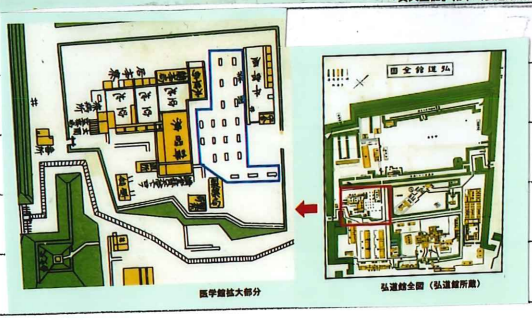
徳川斉昭肖像（弘道館所蔵）

水戸藩9代藩主、徳川斉昭は、光圀にならって、「景山奇方集」55巻を編さんするなど、医薬や医りょうについて深い関心をもっていました。

天保12年に弘道館がそう設され、天保14年には、医学館が開設されました。

斉昭は、医学館に薬園を設置して、薬草を栽培させ、製薬局では薬吏に製薬を行わせました。斉昭は、「賛天堂記」に、外国にたよらず、国内で良薬をつくることの大切さを説き、医学館から日本のあるべき医学・医りょう体制を発信したいという大きな目的を示しています。


「賛天堂記」拓本（弘道館所蔵）


医学館拡大部分

弘道館全図（弘道館所蔵）

様式2

4，研究してわかったこと（まとめ）

たくさんの薬草とその効能を知って，江戸時代の人々の知えにおどろきました。また，徳川斉昭が偕楽園に梅を植えさせたのは，「春先にさく梅の花で領民たちに希望をあたえたい」，「梅は，梅干しにして非常食にできる」という様々な思いからだったと言われていることも知りました。

水戸藩では，医学館で製造された薬は，困きゅう者には無料で分けられたり，病人の治りょうやとうそうの予防接種も無料で行われていて，人々の健康を守るために尽力していたことが分かりました。

（スズメバチがいたため，見ることのできなかった薬草もあったので，また行ってみたいです。）